

宮崎大学大学院健康科学研究科 看護学専攻 博士後期課程
学生の確保の見通し等を記載した書類

I. 入学定員の設定の考え方および定員を充足する見込み（中長期的な見込み含む）	2
II. 学生確保に向けた具体的な取組（予定を含む）と見込まれる効果	5
III. 本課程で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向・分析	7

I. 入学定員の設定の考え方および定員を充足する見込み（中長期的な見込み含む）

1. 入学定員の設定の考え方

1) 新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行う主たるキャンパス)
宮崎大学大学院 健康科学研究科看護学専攻 博士後期課程	3	9	宮崎県宮崎市清武町木原5200

2) 入学定員の設定の考え方

近年の看護系大学の増加とともに博士課程を設置する大学も増えてきているが、教育者・研究者の育成は十分ではなく、博士の学位を有している国内の現職の看護系大学教員は、全体の約4割、国立大学で約6割である（資料1）。全国でも看護学の教育・研究者の育成は重要な課題となっているが、九州で博士課程を有する大学は12大学でありそのうちの4大学が国立大学である。現在、宮崎県内には看護系博士課程は1課程（入学定員2名、収容定員6名）と少ない。

本学大学院健康科学研究科看護学専攻博士後期課程（以下「本課程」という。）では、入学定員を3名とする。これは、近年設置認可された他国立大学看護系博士後期課程と同程度（滋賀医科大学3名（令和6年4月設置）、福井大学3名（令和7年4月設置））であること、本学現看護学研究科修士課程は入学定員10名で、定員充足率は平均95%（令和2年～令和7年）であることから、妥当な設定と考えている（資料2）。また、学生の研究能力の向上を図るため、複数の研究指導教員による指導体制を行うこととしており、確実に教育支援を行うためにも入学定員3名を妥当とした。

後述する、看護学研究科の在学生・修了生を対象としたアンケートでは、博士後期課程進学を検討していると回答した者は、回答者37名のうち23名（62.2%）であり、これを本学修士課程定員10名で考えた場合、その約半数以上が進学検討者となることが予測される。この調査で博士後期課程への進学検討者の4名が、進学時期を開設年度である令和9年度としていることから、設置後の早い時期より本学修了生からの進学志望が見込まれる。

さらに、同様に医学部看護学科の在学生を対象としたアンケートでは、大学院進学に対して前向きな回答をした者が、回答者81名のうち57名（70.3%）と高い割合であることに加え、卒業後の勤務先・進学先に宮崎県内を視野に入れている学生も48名（60%）と高く、本学看護学専攻博士前期課程から後期課程までを志向している学生も47名

（58%）であった。中長期的に見ても本学が博士後期課程を設置した後の入学希望者は十分に見込まれると考える。このように入学志願者からの観点からも入学定員を3名とすることは妥当な設定であると考えている。また、本課程を設置することで、博士後期課程へ

の進学を志す者の県外流出を回避し、将来を嘱望される優秀な人材が県内に定着することも期待できると考えている。

2. 競合校の状況分析

現修士課程の入学生は宮崎県内からの入学生が多く、県外からの入学希望者も宮崎県出身者であることが多い。また、これまでの本学修士課程修了生の博士課程進学先は、県内では本学大学院医学獣医学総合研究科の他、宮崎県立看護大学、近県では鹿児島大学や熊本大学であるため、競合校として宮崎県および近隣県で看護学系博士後期課程を設置している3国公立大学（国立2大学、公立1大学）の入学者状況を確認した。3大学中2大学が100%以上の充足率であり、他1大学も94.4%の充足率であった（表1）。また、令和7年度入学選抜試験において3大学中2大学が1倍以上の倍率となっており、本課程においても入学者の確保は期待できるものと推察される。

宮崎県において看護学分野の博士後期課程を設置している大学は宮崎県立看護大学大学院のみであり、研究領域は既存の専門領域を基盤とした教育研究体制を構築しており、各専門分野の深化を主たる目的としている。一方で、本学が構想している博士後期課程は、ヘルスケアデザイン看護学を教育研究領域として、複雑化する健康課題を、社会科学的視座をもって分析を行うとともに、研究成果の社会実装を視野に入れた実践変革を重視する統合横断的な研究アプローチに基づき、健康課題の再構成と実践の再設計を行う点で、教育研究上の独自性がある。研究志向および養成する人材像において志願者層は必ずしも重複せず、既存の博士課程とは異なるニーズに応える教育研究課程である。宮崎県においては、健康課題を地域課題解決とともに解決できる高度実践能力と研究能力を併せもつ人材需要や看護系教員の博士取得ニーズが継続的に存在しており、既存の博士課程のみではこのような需要を十分に満たしているとは言い難い。以上のことから、宮崎県立看護大学とは単純な競合関係ではなく、宮崎県における看護学博士人材養成の多様化と高度化を担う補完的關係にあると位置づけられる。

表1 競合校の入学者状況（令和7年度公表）

大学	入学定員 (収容定員)	入学者数 (受験者数)	在籍学生数
宮崎県立看護大学	2名 (6名)	2名 (3名)	15名
鹿児島大学	6名 (18名)	6名 (10名)	31名
熊本大学	6名 (18名)	4名 (5名)	17名

3. 学生確保に関するアンケート調査

博士後期課程に設置に伴って、下記の調査を行った。

- 1) 宮崎大学大学院看護学研究科在学生・修了生のアンケート調査結果

本学大学院看護学研究科在学生・修了生のうち、メールアドレスを把握できている 50 名に対して、構想している本課程に進学希望等に関するアンケート調査を実施し、37 名から回答があった（資料 3－1、3－2）。

本課程の設置の趣旨については、「大変興味がある」14 名、「興味がある」19 名であった。回答者全体の 89.2%を占めており、本課程への期待が高いことが示された。

進学希望については、「ぜひ進学したい」7 名、「条件が合えば検討したい」6 名、「将来必要性を感じれば検討したい」10 名であり、進学に前向きな回答をした者が 23 名（62.2%）と高い割合であった。進学に対して前向きな回答をした 23 名の進学時期の希望は、「開設時（令和 9 年 4 月）」と回答した者が 4 名であり、開設時より定員の充足が十分に見込まれる。また、「開設 1～4 年後」と回答した者 7 名と、継続的な充足も見込まれる。

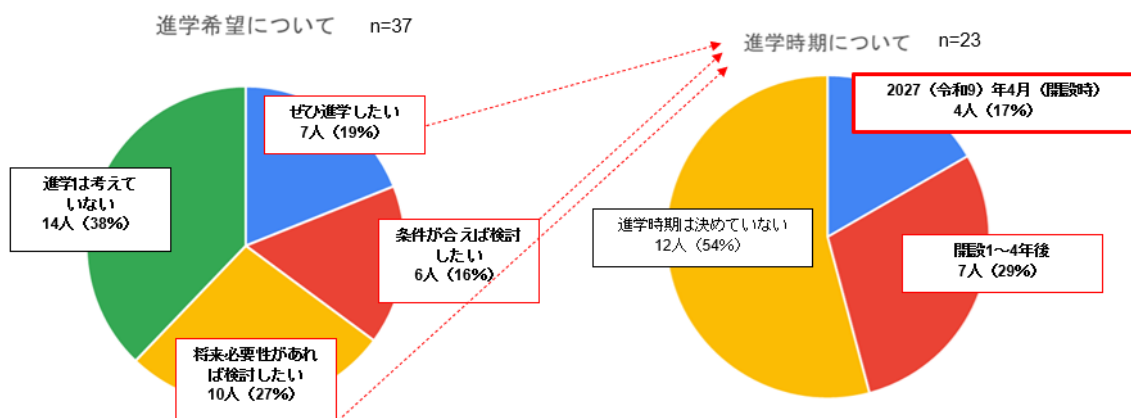


図 進学希望と進学時期

2) 宮崎大学医学部看護学科在学生のアンケート結果

本学医学部看護学科在学生（1～4 年生）245 名にアンケート調査を実施し、81 名（1 年生 26 名、2 年生 22 名、3 年生 18 名、4 年生 15 名）から回答があった（資料 4－1、4－2）。

大学院への進学については、「ぜひ進学したい」25 名、「条件が合えば検討したい」13 名、「将来必要性を感じれば検討したい」19 名であり、前向きな回答をした者が 57 名（70.3%）と高い割合であった。前向きな回答は 1 年生が 19 名、2 年生が 17 名、3 年生が 11 名、4 年生が 10 名と、学年別にみても一定数の学生が関心を持っており、継続的な充足が見込まれる。

また、卒業後の勤務先・進学先に宮崎県内を視野に入れている学生は 48 名（60%）と高い割合のため、キャリアを経過したのち、大学院進学を検討する可能性は十分に見込まれる。

Ⅱ. 学生確保に向けた具体的な取組（予定を含む）と見込まれる効果

1. 広報活動の強化

1) 大学院説明会

現看護学研究科修士課程では、大学院説明会を対面および web 配信により行っており、出願時期や勤務等に合わせて、社会人も参加できるように開催時期や時間等を配慮して計画している。説明会の案内は、本学学部生、宮崎県内の医療施設、看護師養成学校に送付している。また、学部学生には卒業後の就職・進学ガイダンス時（3 年次前期）に大学院進学案内をしている。本課程の学生確保に向けて、これらの説明会や案内を継続するとともに、同窓会に協力を得て学部卒業生および研究科修了生に対しても、大学院の概要や説明会の案内を行う。

2) 医療機関訪問

県内の主要な病院と施設、実習等で関係している病院・施設に大学院で教育を行っている教員が訪問し、大学院の履修や受験に関する説明や大学院説明会の案内を行っている。本課程の学生確保に向けて、本学大学院（博士前期課程・博士後期課程）の設置の理念や履修・受験に関する説明を行い、本学大学院に対する理解や関心を深めてもらう。

3) 本課程における教育や研究の展望に関する講演会等の開催

本学地域資源創成学部との連携により、看護学と社会科学を統合した「ヘルスケアデザイン看護学」の教育・研究の方向性を学生・教員が共有できる場として、講演会等を企画・開催している。はながしま診療所（宮崎市）における野田聖子衆議院議員の来訪・講演では、地域資源創成学部および看護学科の教員に加え、看護学科学生 9 名と地域資源創成学部学生 5 名が参加し、地域医療、子育て支援、ジェンダーと政策など、本課程で取り組むべき課題や研究テーマについて意見交換を行った。これにより、将来の博士後期課程進学希望者に対して本課程の特徴や研究の方向性を具体的に示すとともに、両学部の学生が早期から協働的な学びを経験できる機会として活用している。

2. 特色ある教育課程

本課程では、看護学を基軸として社会科学の視座と実践知を融合し、地域社会の構造的課題を背景とする健康課題に対して、人々の well-being を実現する持続可能なヘルスケアシステムを地域社会の中で創出・共創できる看護学の実践者・教育者・研究者（トッパー）を養成することを目的とする。

博士前期（現修士）課程では、4 つの教育研究分野「基盤システム看護学」「地域・精神看護学」「成人・老年療養支援看護学」「母子健康看護学」の 7 領域（生体システム、基盤システム、地域、精神、成人・老年療養支援、女性健康、小児健康）のいずれかの専門領域を中心に探求を行う。これに対して博士後期課程では、4 つの教育研究分野を起点として、社会科学およびデータサイエンス、デザイン思考を統合して、ヘルスケアシステムを創出する「ヘルスケアデザイン看護学」として、社会実装のプロセスに資する研究を進めていく。

「ヘルスケアデザイン看護学」は、人と環境との相互作用の視点から健康およびヘルスケアの課題を社会構造と生活文脈の中でとらえなおし、well-being の実現に資するヘルスケアおよびヘルスケアシステムの創出、社会実装、評価、変革に必要な知を創出する看護学の研究領域である。この「ヘルスケアデザイン看護学」を本博士後期課程における単一の研究領域として位置づけ、看護学の専門性と社会科学、データサイエンス、デザイン思考を統合し、研究を深化させる教育研究体制を構築するとともに本課程の教育課程を編成している。

そのため、本課程の教育および研究指導は看護学科教員のみならず、地域資源創成学部教員および医学部医学科教員による体制で行う。これにより、社会科学的視点を取り入れた健康課題の再解釈と、課題解決に向けた社会実装や政策提言へとつながる研究を推進することが可能となる。地域資源創成学部の教員と連携して教育研究を行う看護学系博士後期課程は他に例がなく、本課程の大きな特色である。このような学際的教育研究体制は、既存の博士後期課程とは異なる特徴を有しており、看護学分野における新たな取組みとして位置づけられる。

3. 学習環境の充実

現修士課程においては、下記のとおり学習環境の充実に努めており、博士後期課程においても多様な人材を受け入れられるように継続して学習環境の充実に図る。

1) 社会人入学制度と長期履修制度

多様な学習形態として「働きながら学ぶ」ための社会人入学制度を設けている。博士前期（現修士）課程では2年間の学費で4年間在籍し、仕事や家庭の事情に合わせて学習を進めることができる長期履修制度を設けている。博士後期課程においても学生の事情に合わせて、履修計画を立てて4～6年間在籍できる長期履修制度を設ける。

2) 遠隔授業システムの活用

大学院博士前期（現修士）課程で開講している授業は、対面形式のほか、遠隔授業システムを利用したオンデマンド型やライブ配信による授業も積極的に実施している。オンデマンド型の場合、学生は、講義の動画を所定サイトから視聴でき、担当教員は、学生からの質問等をサイト経由で受け取ることで、質疑応答や理解度の確認を随時行って、対面授業と同等の教育効果を確保している。ライブ配信の場合、音声通信やチャット機能により、学生間の意見交換を可能とすることで、対面での実施により近い形での講義を行っている。博士後期課程においては、オンデマンド型やライブ配信の授業は限定的に行うが、実施する際には同様の対応を行うとともに、授業の討議の際には複数の学生や研究者と討議ができるように履修生以外の学生や教員も参加できるようにすることで、教育の質を担保する。

3) 奨学金制度

学業成績、人物ともに優れ、経済的理由によって就学困難な学生には、選考のうえ、日本学生支援機構奨学金が貸与される。

博士後期課程についても同様に、受講しやすさや学生負担の軽減などを図り、進学しやすい環境整備に努める。入学料および検定料に関しては、博士前期課程（現修士）を修了

し、引き続き博士後期課程に進学する者については、入学料および検定料を徴取しない制度を整備している。

Ⅲ. 本課程で養成する人材の社会的要請や人材需要の動向・分析

1. 宮崎県及び関係機関からの要望

令和 7 年 9 月、宮崎県医療政策課に博士後期課程（看護学専攻）の構想を説明し、意見交換を行った。県の関係者から 3 大生活習慣病の死亡率、心の問題を抱える自殺者数及び子どもの肥満等、いずれも全国平均を上回る高い数字であることは、以前からの懸案事項であるが、県民をサポートする看護師・保健師をはじめとする医療スタッフの偏在も解決の糸口が見えない状態であるため、そのような人材をマネジメントできるリーダーを育成してほしいとの要望が強かった。

また、令和 7 年 10 月、宮崎県看護協会協会長に同様の意見交換を行った際には、看護を選択する学生の減少や看護職の県外流出に伴い、県内各地から慢性的な看護スタッフ不足による病棟の閉鎖や縮小など、地域医療・福祉の継続が難しいとの声が相次いでおり、今までさまざまな取組を行ってきたが、現状のままでは限界があるため、宮崎県の看護を牽引できる革新的リーダーとなる人材が必要とのご意見があり、本課程に対する強い期待が示され、同協会より要望書をいただいた（資料 5）。

また次世代の看護人材を育てる人材の育成について、強い要望があった。

2. 医学部看護学科若手教員、および県内の看護学若手教員のキャリアアップ

現在の看護学科には、28 名の教員が在籍している。本学の発展のためには、若手教員の教育力と研究力、看護実践力を高めることが必要であり、博士の学位を取得できる環境が必要である。当該教員のうち、博士の学位未取得の教員は 9 名であり、その者の進学先としても、本課程の必要性は高いと考えている。宮崎県立看護大学の教員も博士の学位未取得状況は、全国平均とほぼ同様の半数であることから、宮崎県内の看護系大学の博士課程への進学の実績が広がることで、多様な博士人材の育成につながると期待できる。

これらのことから、本課程における教育・研究の人材としての需要は高いものと考えられる。

3. 地域の病院関係機関の調査

県内の主要な医療機関および実習施設 53 機関に対して、看護キャリアアップに関するアンケート調査を実施し、病院、地域包括支援センター、保健所等 30 機関から回答があった（資料 6-1、6-2）。

職員の大学院進学について推奨する旨の回答は 9 機関、大学院修了者を積極的に採用したい旨の回答は 12 機関、看護等管理職に看護学の修士又は博士号を取得していることを望ましいとする回答は 11 機関であった。

また、養成する人材像から想定される修了後の進路（施設・機関）ごとの、採用に対する考え方について分析したところ、EBPM を推進する人材（人材像 2）の進路である自治

体等（保健センター、地域包括支援センター、保健所・保健福祉事務所・総合事務所）においては、17 機関のうち 6 機関が採用したいとの意向を示した。病院や在宅医療の場での組織改革を推進する人材（人材像 3）の進路である病院等においては、9 機関のうち 5 機関が採用の意向を示した（資料 6－3）。

さらに、本課程にどのような効果を期待するかの設定に対し、「研究に根づいた知識・技術を基盤として実践を牽引する能力」と答えた機関が 24 機関と最も多く、地域の実践現場において研究的視点を有する高度人材の必要性が強く認識された。特に、医療機関や自治体等の行政機関においては、エビデンスに基づく実践の推進や地域包括ケア体制の高度化に向けて、実践経験と研究能力を併せ持つ人材が求められている。本課程では、社会人学生の受入れを想定し、研究成果を実践の改善や新たなケアモデルの創出へとつなげる能力を備えた研究者の養成を目指しており、地域社会からの人材需要に応える課程として位置づけられる。

以上のことから、自治体・行政機関、病院ともに一定数の肯定的回答があり、地域の病院関係機関からの採用の人材需要があると言える。

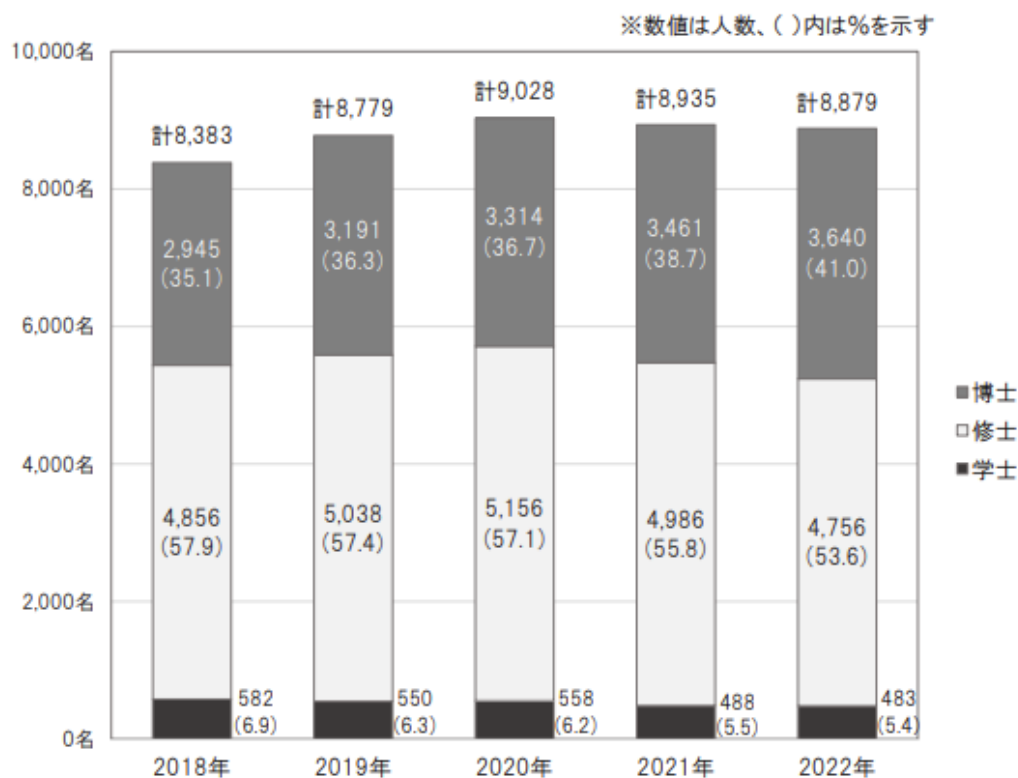
学生確保の見通し等を記載した書類（資料）

資料 1	看護系大学看護教員の学位取得状況	2
資料 2	修士課程定員充足状況	3
資料 3 - 1	調査票：宮崎大学大学院看護学研究科在学生・修了生対象	4
資料 3 - 2	調査結果：看護学研究科修士課程在学生・修了生	6
資料 4 - 1	調査票：宮崎大学医学部看護学科在学生対象	11
資料 4 - 2	調査結果：宮崎大学医学部看護学科在学生	14
資料 5	宮崎県看護協会要望書	18
資料 6 - 1	調査票：地域の病院等を対象とした調査票	19
資料 6 - 2	調査結果：地域の病院等に対する調査	21
資料 6 - 3	調査結果：地域の病院等に対する調査 一回答機関別 進学・採用に対する考 え一	24

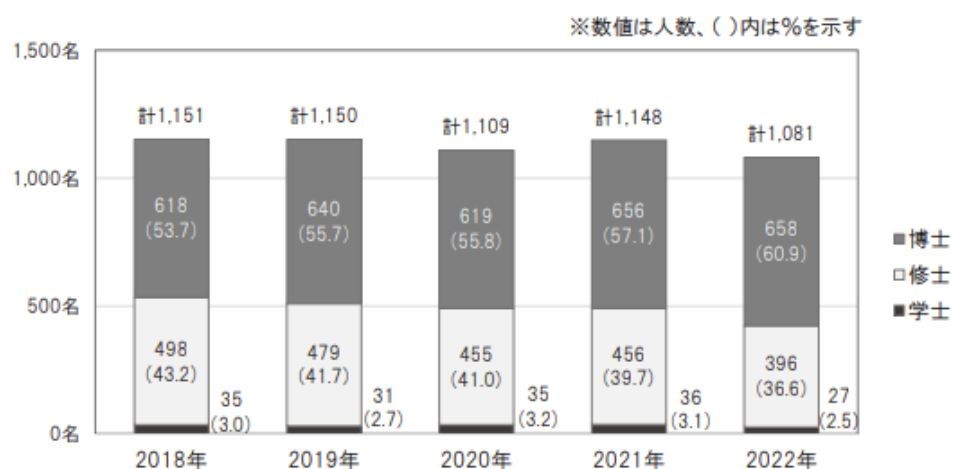
資料1 看護系大学看護教員の学位取得状況

日本看護系大学協議会/日本私立看護系大学協会調査（2024）
<https://www.janpu.or.jp/file/2018-2022DB5yearComparison.pdf>

4-1-1. 看護学部・学科教員の学位修得状況〔全体〕



4-2-1. 看護学部・学科教員の学位修得状況〔国立・全体〕



資料2 修士課程定員充足状況

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
志願者数	15	12	11	7	13	10
合格者数	12	11	8	7	11	10
入学者数	12	10	8	7	11	9
入学定員	10	10	10	10	10	10
入学定員充足率	120%	100%	80%	70%	110%	90%
在籍学生数	29	32	30	26	23	23
収容定員	20	20	20	20	20	20
収容定員充足率	145%	160%	150%	130%	115%	115%

資料3－1 調査票：宮崎大学大学院看護学研究科在学生・修了生対象

宮崎大学大学院看護学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係る アンケート調査（お願い）

宮崎大学大学院看護学研究科では、新たに大学院博士課程の設置を検討しています。

この調査は、設置計画検討の資料とするため、関係各位のご意見を広くお伺いするものです。添付の設置計画及び構想案をご一読いただき、ご回答いただきますようお願い申し上げます。（所用時間：約5分）

- ・この調査結果は、統計的に整理して個人の特定を回避し、目的以外に利用することはありません。守秘義務を厳重に履行いたします。
- ・内容は構想中のものであり、変更となる場合があります。

問1. あなたの年齢をお答えください。

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代以上

問2. あなたの現在の職種をお答えください。

1. 修士課程学生 2. 看護師 3. 保健師 4. 助産師
5. その他の医療系職種（ ） 6. 教育研究職
7. その他（ ）

問3. あなたの現在の所属先をお答えください。

1. 看護系大学院 2. 非看護系大学院 3. 病院・診療所
4. 助産院 5. 訪問看護ステーション 6. 高齢者福祉施設
7. 行政機関 8. 企業・団体 9. 教育機関 10. その他（ ）

問4. あなたの現在のお住まい（現住所）をお答えください。

1. 宮崎市内 2. 宮崎市外（宮崎県内） 3. 宮崎県外

問5. あなたの現在の所属先所在地をお答えください。

1. 宮崎市内 2. 宮崎市外（宮崎県内） 3. 宮崎県外

問6. あなたの修士課程修了後の経過年数をお答えください。

1. 現在在学中 2. 卒業(修了)後1～2年 3. 卒業(修了)後3～5年
4. 卒業(修了)後6～10年 5. 卒業(修了)後11年以上

問7. 宮崎大学大学院博士後期課程（看護学専攻）では、人々の well-being 向上と持続可能なヘルスケアシステムの創造に寄与し、地域社会に還元するために、社会科学の視座をもった看護系人材を育成する教育を目指しています。このような異なる学問分野・領域と協働して教育研究を行う異分野融合の教育研究について、どのようにお考えですか。

1. 大変興味がある 2. 興味がある 3. どちらともいえない

4. 興味がない

問 8. あなたは宮崎大学大学院博士後期課程（看護学専攻）への進学をどのようにお考えですか。

1. ぜひ進学したい 2. 条件が合えば検討したい
3. 将来必要性を感じれば検討したい 4. 進学は考えていない

問 9. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。大学院博士後期課程進学を検討する理由をお答えください。

1. 博士前期課程（修士）の教育・研究だけでは不十分と考えるから。
2. さらに高度な専門的知識や能力を身につけたいから。
3. 臨床実践能力の向上のため。
4. 博士後期課程で研究を継続したいテーマがあるから。
5. 将来、臨床での指導的役割を担いたいから。
6. 将来、看護学分野の教育や研究に携わる業務に就きたいから。
7. 博士の学位取得が職場から評価されるため。
8. 専門の幅を広げ、将来的なキャリアの向上・業務の拡大につなげたいから。
9. その他（ ）

問 10. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。 あなたの進学時期についてどのようにお考えですか。

1. 2027(令和9)年4月(開設時) 2. 開設1~4年後
3. 開設5年後以降 4. 進学時期は決めていない

問 11. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。大学院博士後期課程への進学を検討する際に重視する点はなんですか。（複数選択可）

1. 教員の研究能力 2. 教員の臨床能力 3. カリキュラム
4. 研究指導体制 5. 学費 6. 奨学金制度や授業料免除制度
7. 設置主体（国立・公立・私立など） 8. 校舎・施設の充実
9. 通学時間・利便性など 10. その他（ ）

問 12. 宮崎大学大学院看護学研究科博士課程に、どのような効果を期待されますか。次の中から当てはまるものはなんですか（複数選択可）。

1. 研究成果を社会へ発信し、浸透を推進する能力
2. 看護の次世代を育てる教育力
3. 研究に根づいた知識・技術を牽引する能力
4. リーダーシップを発揮している高度専門職業人を指導する能力
5. 研究を通して継続的な教育体制を構築する能力
6. 社会の要請と看護学の発展に貢献する能力
7. 国際的に研究を推進する能力
8. その他（ ）

問 13. 宮崎大学大学院看護学研究科博士後期課程（看護学専攻）の設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。（自由記載）

資料３－２ 調査結果：看護学研究科修士課程在学生・修了生

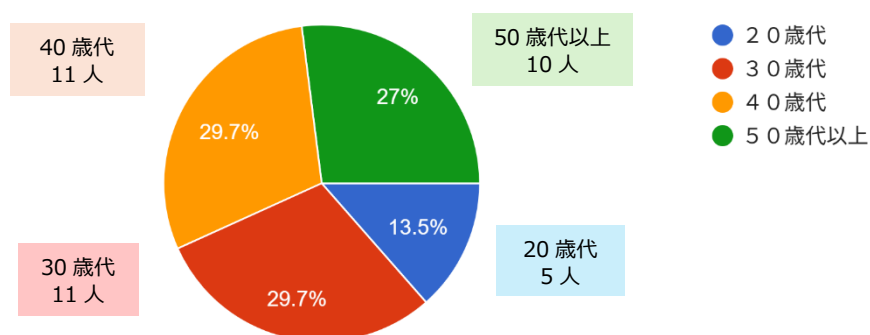
宮崎大学大学院健康科学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係るアンケート調査

対象者：宮崎大学大学院看護学研究科在学生・修了生 50 名

調査時期：令和 8 年 1 月 22 日（木）～ 2 月 3 日（火）

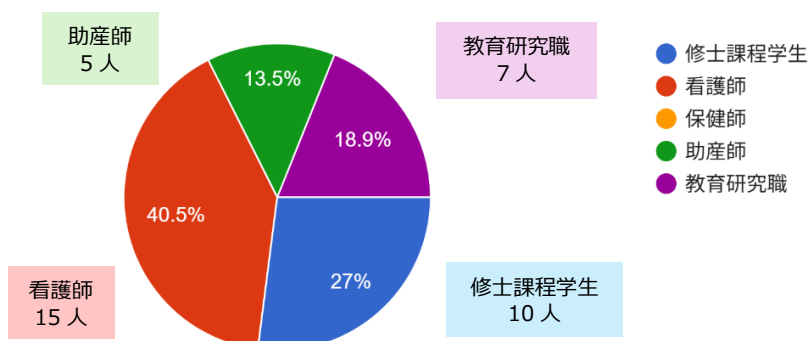
問 1．あなたの年齢をお答えください。

37 件の回答



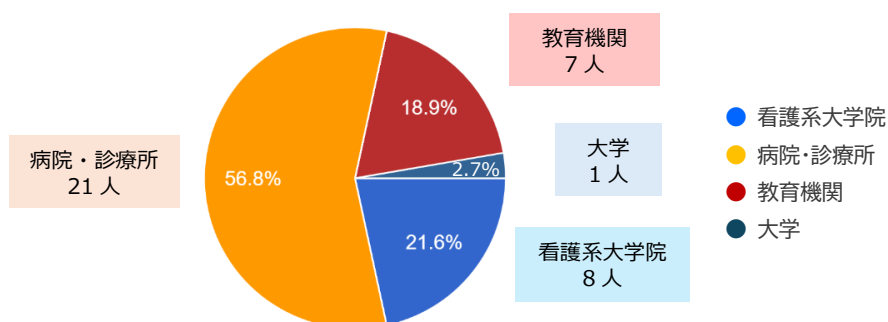
問 2．あなたの現在の職種をお答えください。

37 件の回答



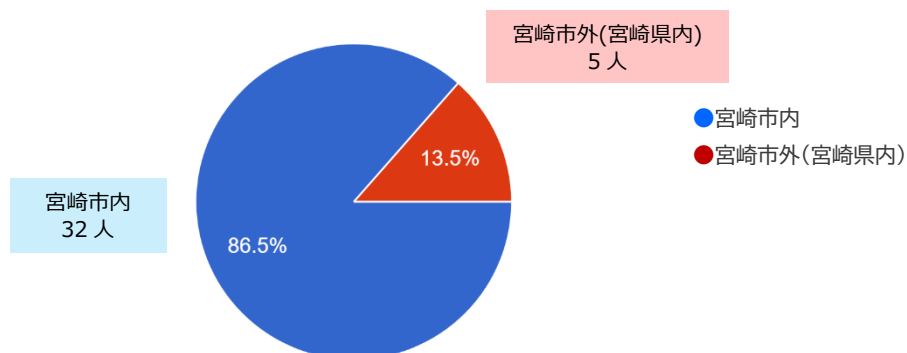
問 3．あなたの現在の所属先をお答えください。

37 件の回答



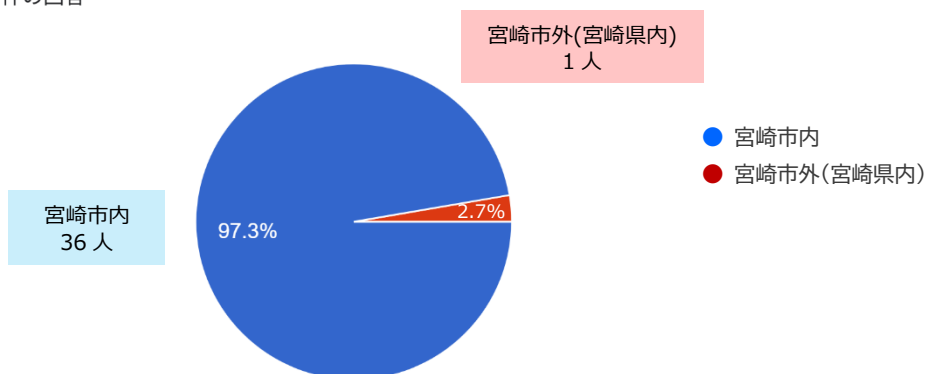
問4． あなたの現在のお住まい（現住所）をお答えください。

37 件の回答



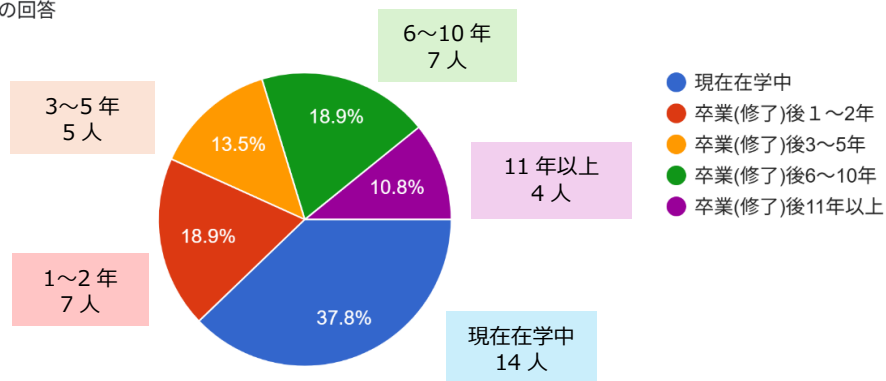
問5． あなたの現在の所属先所在地をお答えください。

37 件の回答



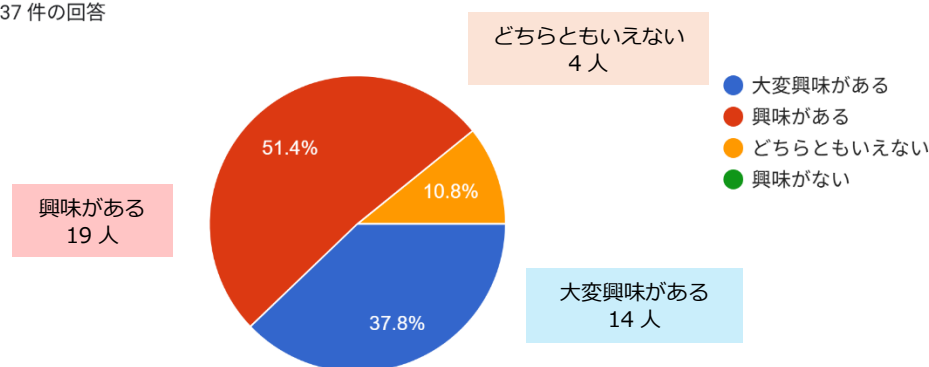
問6． あなたの修士課程修了後の経過年数をお答えください。

37 件の回答



問 7. 宮崎大学大学院博士後期課程（看護学専攻）では、人々の well-being 向上と持続可能なヘルスケアシステムの創造に寄与し、地域社会に還元するために、社会科学の視座をもった看護系人材を育成する教育を目指しています。このような異なる学問分野・領域と協働して教育研究を行う異分野融合の教育研究について、どのようにお考えですか。

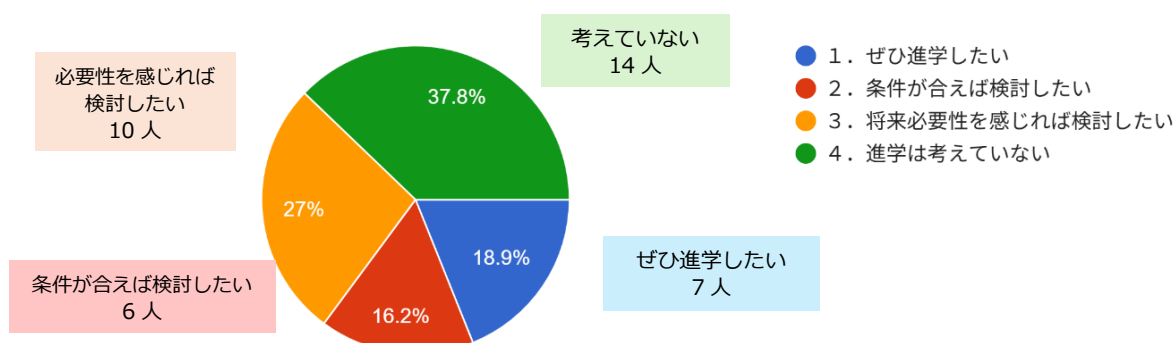
37 件の回答



問 8.

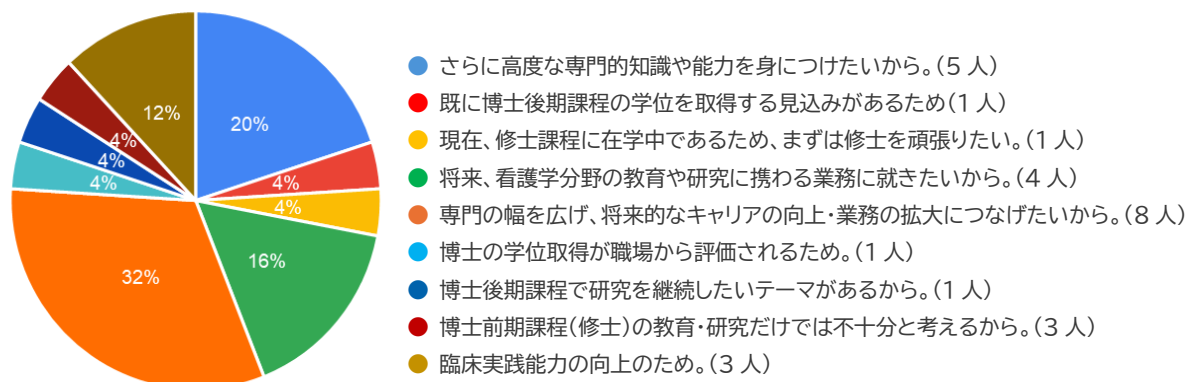
あなたは宮崎大学大学院博士後期課程（看護学専攻）への進学をどのようにお考えですか。

37 件の回答



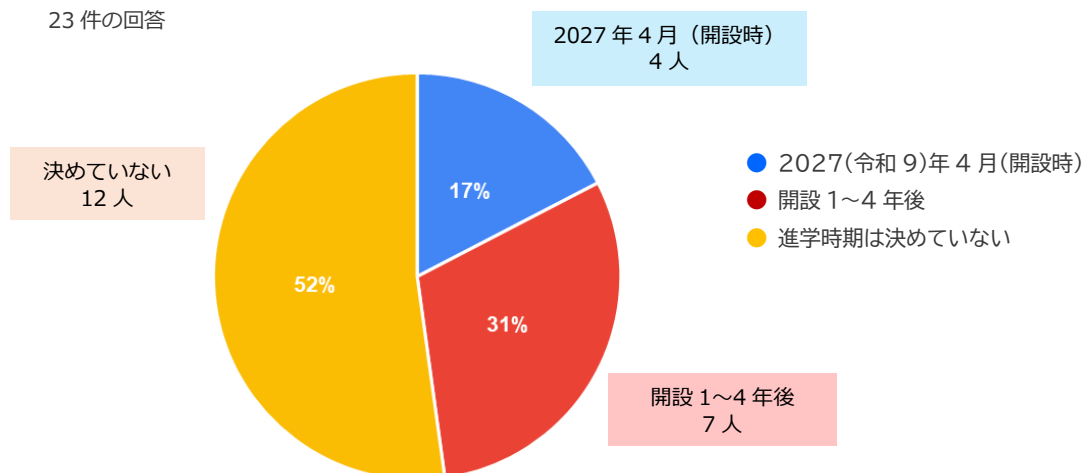
問 9. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。大学院博士後期課程進学を検討する理由をお答えください。

25 件の回答



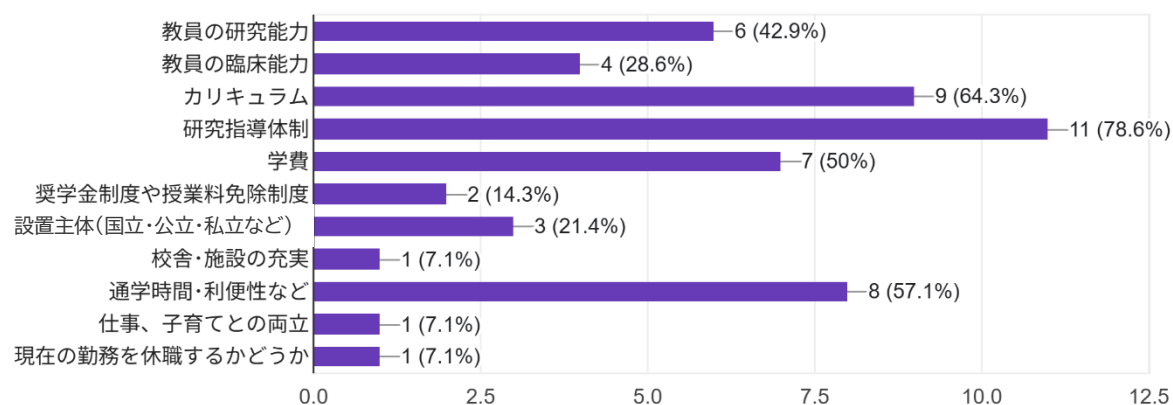
問 10. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。あなたの進学時期についてどのようにお考えですか。

23 件の回答



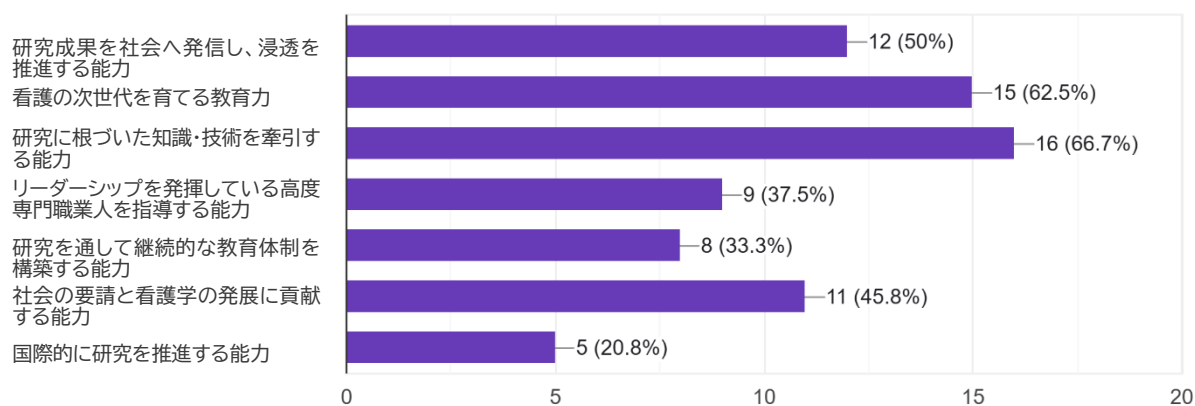
問 11. 問 8 で 1. ～ 3. を選択された方にお尋ねします。大学院博士後期課程への進学を検討する際に重視する点はなんですか（複数選択可）。

14 件の回答



問 12. 宮崎大学大学院看護学研究科博士課程に、どのような効果を期待されますか。次の中から当てはまるものはなんですか（複数選択可）。

24 件の回答



問 13. 宮崎大学大学院看護学研究科博士課程（看護学専攻）の設置計画に対するご意見・ご要望をお聞かせください。（自由記載）

6 件の回答

- ・県内で博士課程に進学でき、かつ働きながら履修できるのであれば魅力的だと思う

- ・ぜひ計画してほしい

- ・宮崎県では進学先が限られている中、博士課程の新設によって進路の選択肢が広がることは、大変心強いことだと感じています。

家庭を持ちながら進学を目指す場合、経済的・地理的な制約から進学を諦めざるを得ないこともあります。

そのような背景を考えると、県内で学び続けられる選択肢が増えることに大きな期待を寄せています。

- ・このまま宮崎大学で博士後期課程へ進むことができるよう今は修士課程を頑張りたいと思います。

- ・地域の看護の質を上げていくためにも、博士課程は必要と考えます。

- ・とても興味深いです。

ですが、臨床で働きながら修士課程を学ぶのも大変でした。

博士は、修士よりも大変なので休職していかないといけないかな、と考えると子育て世代には、時間的、体力的、費用面でもなかなか決断が難しいです。

修士まで頑張ったから、という気持ちもあります。実際のカリキュラムとか、どうなるのかな、という疑問もあります。

やはり、働きながらは難しいでしょうか？イメージがつかない、というのもあります。

ですが、宮崎大学で看護博士後期課程が開設されるのは大変良いことだと思います。

資料4－1 調査票：宮崎大学医学部看護学科在学生対象

宮崎大学大学院健康科学研究科（仮称）＊博士課程後期（看護学専攻）設置に係るアンケート調査

宮崎大学では、令和9年度に「宮崎大学大学院健康科学研究科（仮称）研究科博士課程後期（看護学専攻）」の設置を計画しています。

今後の検討の参考とさせていただくため、看護学科に在籍する皆様のご意見を伺いたく、本アンケートへのご協力をお願いいたします。

※現看護学研究科は修士課程に心理科学専攻を設置し、名称を健康科学研究科に変更します

回答は無記名で行い、統計的に集計したうえで、個人が特定される形で公表されることはありません。

※アンケートの回答は、QRコードまたはURLにアクセスし、Google フォームにてご回答ください。

回答用 URL：

回答期限：令和8年1月26日（月）

問1．あなたの学年をお答えください。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生
5. その他（ ）

問2．あなたの年齢をお答えください。

1. 20歳未満
2. 20～21歳
3. 22～24歳
4. 25歳以上

問3．あなたの現在のお住まい（現住所）をお答えください。

1. 宮崎市内
2. 宮崎市外（宮崎県内）
3. 宮崎県外

問4．卒業後に希望している進路について、現時点で最も近いものをお選びください。

1. 病院・診療所での看護師
 2. 訪問看護ステーション・在宅医療分野での看護師
 3. 保健師として行政機関（市町村・保健所等）で勤務
 4. 助産師として勤務
 5. 大学院（修士課程）への進学を希望している
 6. その他（ ）
 7. まだ決めていない
-

問 5. 卒業後の勤務先・進学先について、どのようにお考えですか。

1. できれば宮崎県内で働きたい・進学したい
 2. 宮崎県内・県外のどちらでもよい
 3. できれば宮崎県外で働きたい・進学したい
 4. まだよく分からない
-

問 6. 将来的に、看護学分野の大学院への進学（修士・博士を含む）についてどのようにお考えですか。

1. ぜひ進学したいと考えている
 2. 状況が合えば進学を検討したい
 3. 必要性を感じれば進学を検討したい
 4. 現時点では進学を考えていない
-

問 7. 宮崎大学大学院健康科学研究科（仮称）博士課程後期（看護学専攻）では、看護学を基盤としつつ、社会学・地域学・政策学・データサイエンスなどの視点を取り入れ、地域の健康課題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。

このような「社会科学やデータサイエンスと連携した看護学の博士課程」について、どのようにお考えですか。

1. 大変興味がある
 2. 興味がある
 3. どちらともいえない
 4. あまり興味がない
-

問 8. 将来的に、宮崎大学大学院健康科学研究科（仮称）博士課程後期（看護学専攻）への進学について、どのようにお考えですか。

※「将来的に可能性として考える」場合も含めてお答えください。

1. ぜひ進学したい
 2. 条件が合えば選択肢として検討したい
 3. 必要性を感じれば選択肢として検討したい
 4. 進学は考えていない
-

問 9. 問 8 で 1～3 を選択した方にお尋ねします。

博士課程後期への進学を検討してもよいと考える理由をお答えください。（複数選択可）

1. 看護学や関連分野の高度な専門知識・研究能力を身につけたいから
 2. 臨床や地域での実践力を、研究と結びつけて高めたいから
 3. 将来、看護職として指導的な役割（管理・教育・専門看護師等）を担いたいから
 4. 将来、大学等での教育・研究の仕事に関心があるから
 5. 地域の健康課題や政策に関わる仕事に関心があるから
 6. 博士の学位取得が、自身のキャリア形成に役立つと考えるから
 7. その他（ ）
-

問 10. 問 8 で 1～3 を選択した方にお尋ねします。

博士課程後期への進学時期について、どのようにお考えですか。

資料４－２ 調査結果：宮崎大学医学部看護学科在学生

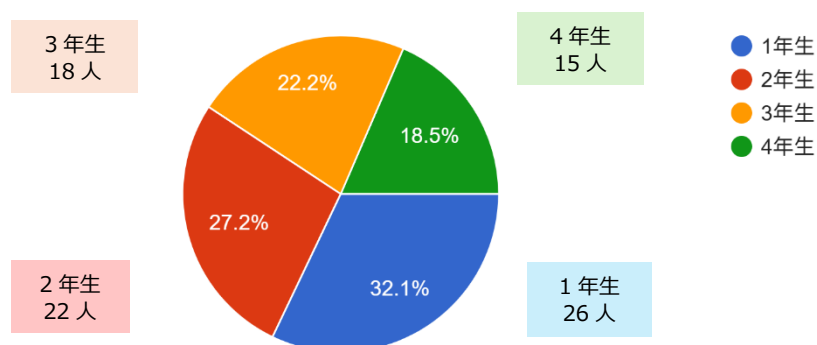
宮崎大学大学院健康科学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係るアンケート調査

対象者：宮崎大学医学部看護学科在学生 245 名

調査時期：令和 8 年 1 月 22 日（木）～ 2 月 3 日（火）

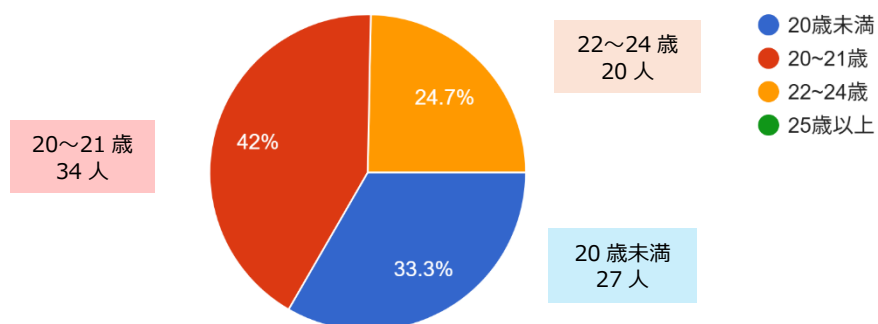
問 1．あなたの学年をお答えください。

81 件の回答



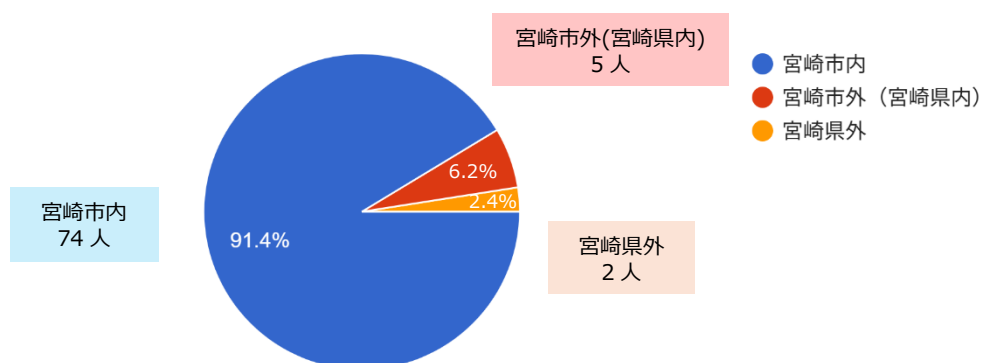
問 2．あなたの年齢をお答えください。

81 件の回答



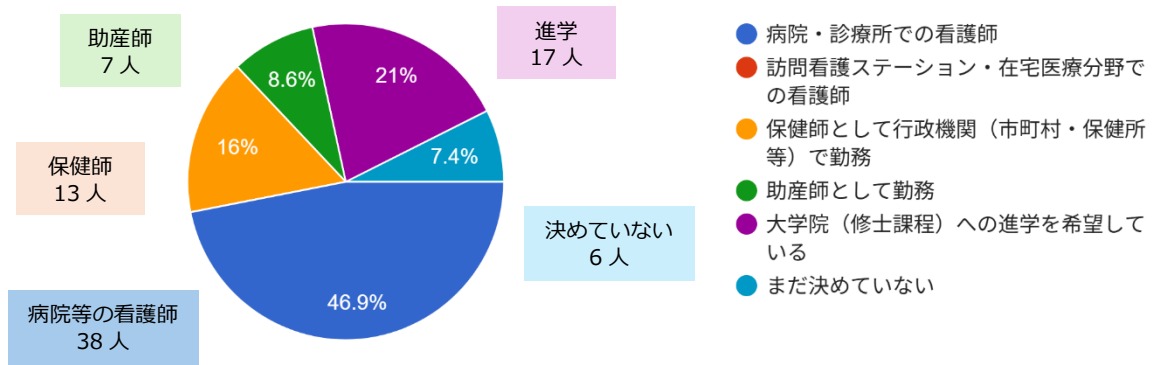
問 3．あなたの現在のお住まい（現住所）をお答えください。

81 件の回答



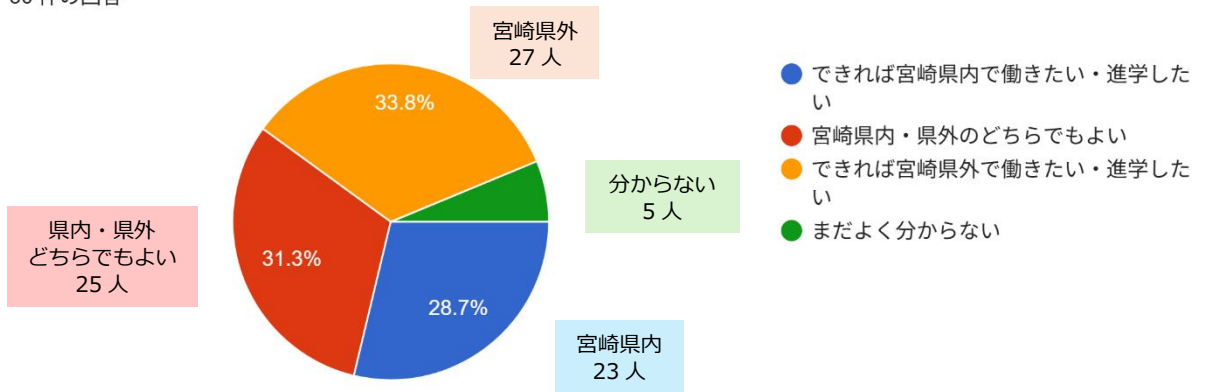
問４．卒業後に希望している進路について、現時点で最も近いものをお選びください。

81 件の回答



問５．卒業後の勤務先・進学先について、どのようにお考えですか。

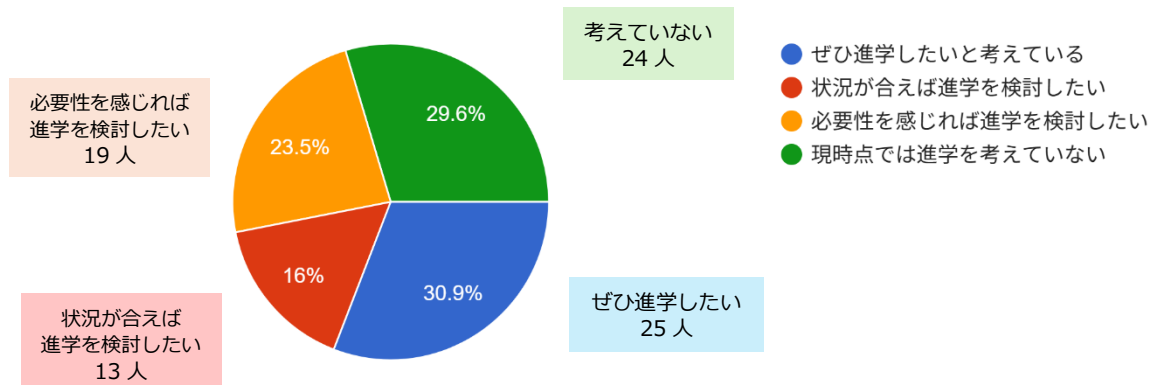
80 件の回答



問６．

将来的に、看護学分野の大学院への進学（修士・博士を含む）についてどのようにお考えですか。

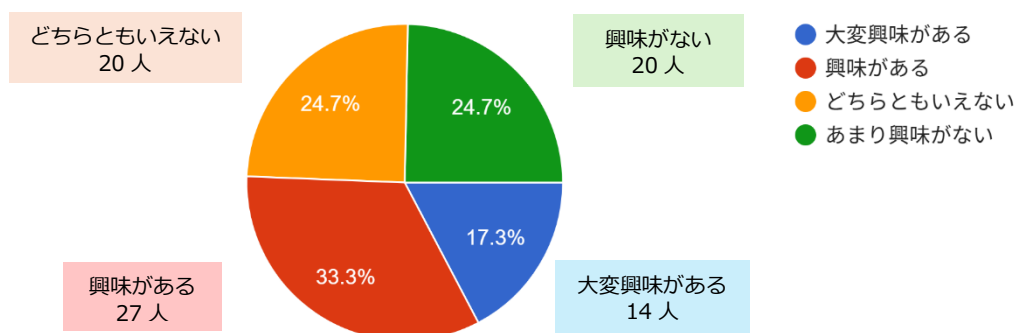
81 件の回答



問 7. 宮崎大学大学院 健康科学研究科（仮称）博士課程後期（看護学専攻）では、看護学を基盤としつつ、社会学・地域学・政策学・データサイエンスなどの視点を取り入れ、地域の健康課題の解決に貢献できる人材の育成を目指しています。

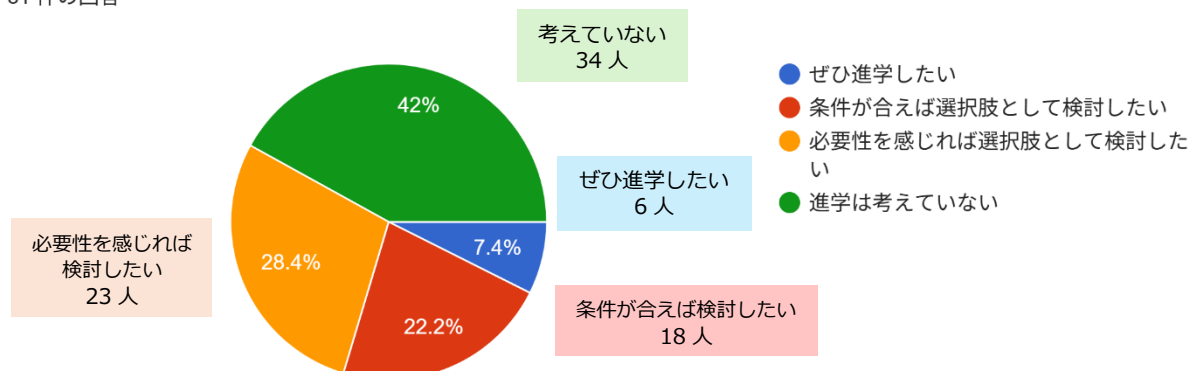
このような「社会科学やデータサイエンスと連携した看護学の博士課程」について、どのようにお考えですか。

81 件の回答

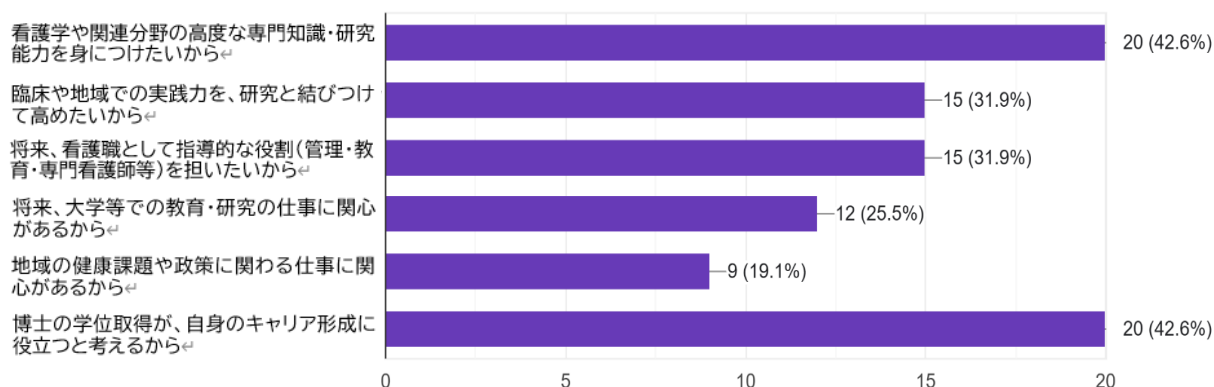


問 8. 将来的に、宮崎大学大学院健康科学研究科（仮称）博士課程後期（看護学専攻）への進学について、どのようにお考えですか。

81 件の回答

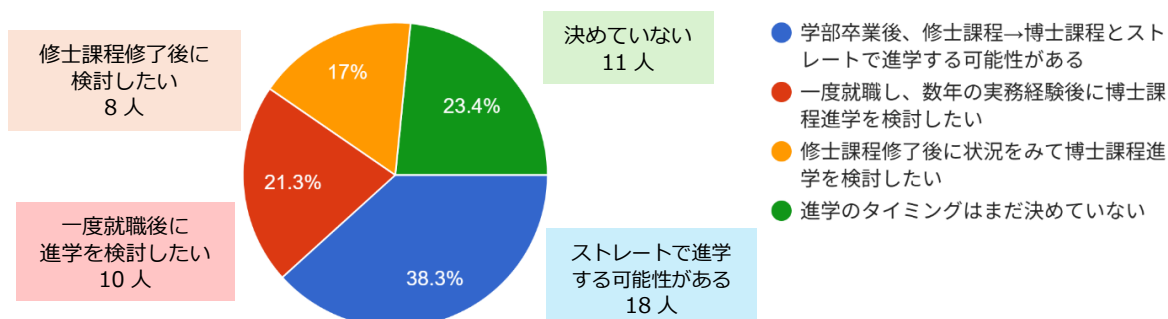


問 9. 問 8 で 1～3 を選択した方にお尋ねします。博士課程後期への進学を検討してもよいと考える理由をお答えください。（複数選択可）



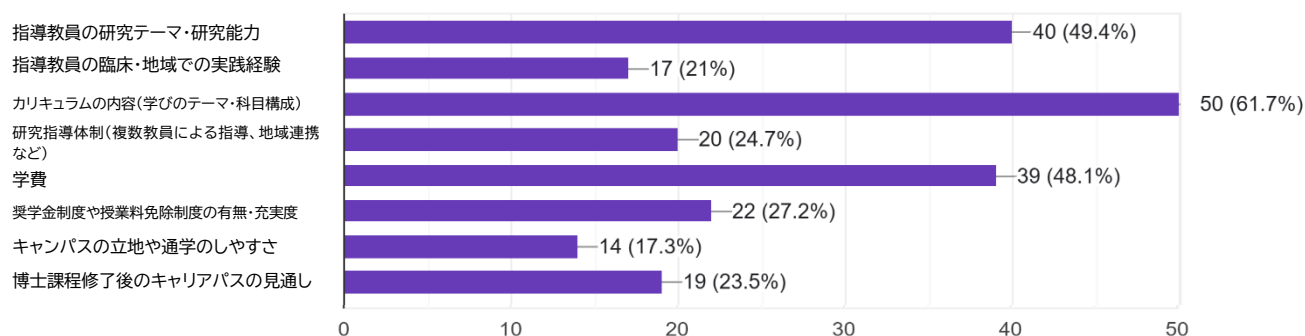
問10. 問8で1～3を選択した方にお尋ねします。博士後期課程への進学について、どのようにお考えですか。

47件の回答



問11. 博士課程後期への進学を検討する際、重視したい点をお答えください。(複数選択可)

81件の回答



問12. 宮崎大学大学院健康科学研究科(仮称)博士課程後期(看護学専攻)の設置計画や、将来の進学に関して、自由にご意見・ご要望があればご記入ください。(自由記載)

より高度な知識の習得や研究のために進学する可能性もあるので、ぜひ設置していただきたい。
研究に興味のある人であれば、博士課程ができれば、修士課程に進学する人もある程度増えると思う。
というのが学べるか分かりづらいため、細かい説明が大事なのかなと思いました
希望と見合えば進学したいと思うが、希望と合う課程を持つ大学院に進学を考えれば良いので、そこまでの必要性を感じない。
多くの分野に関して博士課程を検討していただきたい。
具体的に扱っている研究テーマ(仮)を書くのが嬉しいです
一年生なので修士課程、博士課程をよく理解できてませんが、選択肢が増えるのはありがたいです。
博士課程まで取れるのであれば、院進学したいと考えていた
大変興味がある。学費や免除制度等を見て参考にしたい。
設置した方がいいと思います！！
博士課程があれば嬉しいです。
私は進学については考えていませんが、設置することによって希望者が自分の学びたいことができる環境が増えることは非常に良いことだと思う。

「特になし」の旨を含む回答は削除

資料5 宮崎県看護協会要望書

令和7年10月15日

国立大学法人
宮崎大学長
鮫 島 浩 殿

公益社団法人宮崎県看護協会
会長 久保 敦子



博士課程設置に関する要望書

宮崎県看護協会の活動に対しまして、平素から深いご理解とご支援を賜りありがとうございます。また、宮崎大学医学部看護学科におかれましては、宮崎県の看護人材の育成にご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、宮崎県では、高齢化の進行により複合ニーズを有する対象者が増加する一方で、看護を選択する学生の減少や看護職の県外流出に伴い慢性的な看護職不足に拍車がかかり、地域医療・福祉の継続が大きな課題となっています。

このような中、本協会でも、人材確保と質向上のための教育、定着のための職場環境づくりなど様々な取り組みを行ってまいりました。しかしながら、現状のままでは地域の看護力を維持・発展させるには限界があり、宮崎県の看護をけん引できる革新的リーダーとなる人材が必要と考えます。

宮崎大学における看護学博士課程の設置は、地域に根ざした高度専門職人材の育成と定着に向けた大きな一歩になると確信しております。

看護学に加え、地域創生・社会学・経営学・情報学など多くの分野との学際的連携により、地域の医療・看護の課題を分析・解決できる、多角的な視点を持つリーダーや教育・研究を担う博士人材の育成に、大いに期待するところです。

つきましては、看護職が宮崎県の保健・医療・福祉の未来を支え、「人々のいのちと暮らし・尊厳を守る」使命を果たしていくことができるよう、宮崎大学における看護学博士課程の早期設置を強く要望いたします。

資料 6－1 調査票：地域の病院等を対象とした調査票

宮崎大学大学院看護学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係る アンケート調査（お願い）

宮崎大学大学院看護学研究科では、新たに大学院博士課程の設置を検討しています。

この調査は、設置計画検討の資料とするため、関係各位のご意見を広くお伺いするものです。ご協力をお願い申し上げます。（所用時間：約5分）

- ・この調査結果は、統計的に整理して個人の特定を回避し、目的以外に利用することはありません。守秘義務を厳重に履行いたします。
- ・内容は構想中のものであり、変更となる場合があります。

問1. 貴施設は次のどれに該当されますか。お答えください。

1. 病院（①100床未満 ②200床未満 ③300床未満 ④400床未満 ⑤400床以上）
2. 保健所・保健福祉事務所・総合事務所
3. 保健センター
4. 地域包括支援センター
5. 訪問看護ステーション
6. 教育機関
7. その他（ ）

問2. あなたの現在の職についてお答えください。

1. 医師
2. 看護師
3. 保健師
4. 社会福祉士
5. その他（ ）

問3. 貴施設では、看護リーダーの養成について順調に進んでいますか。

1. 順調である
2. まあ順調である
3. どちらとも言えない
4. やや順調でない（若干苦勞している）
5. 順調でない（苦勞している）

問4. 貴施設では、看護等職員の大学院進学についてどのようにお考えですか。

1. 推奨している
2. まあ推奨している
3. どちらともいえない
4. あまり推奨していない
5. 推奨していない

問5. 貴施設では、看護等職員の大学院修了者の採用について、どのようにお考えですか。

1. 積極的に採用したい
2. まあ積極的に採用したい
3. どちらともいえない
4. あまり採用したくない
5. 採用したくない

問6. 看護等管理職（看護部長、施設長等）に昇格する際に、看護学の修士又は博士号を取得していることは望ましいと思いますか。

1. 望ましい
2. まあ望ましい
3. どちらとも言えない
4. あまり望ましくない
5. 望ましくない

問7. 本学大学院看護学研究科博士課程に、どのような効果を期待されますか。次のなかから当てはまるものをお答えください（複数回答可）。

1. 研究成果を社会へ発信し、浸透を推進する能力
2. 看護の次世代を育てる教育力
3. 研究に根づいた知識・技術を牽引する能力
4. リーダーシップを発揮している高度専門職業人を主導する能力
5. 研究をとおして継続的な教育体制を構築する能力
6. 社会の要請と看護学の発展に貢献する能力
7. 国際的に研究を推進する能力
8. その他（ ）

問8. その他、貴施設における看護キャリアアップ等の人材育成面に関し、ご意見等があれば記載ください（自由記述）。

資料6-2 調査結果：地域の病院等に対する調査

宮崎大学大学院健康科学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係るアンケート調査

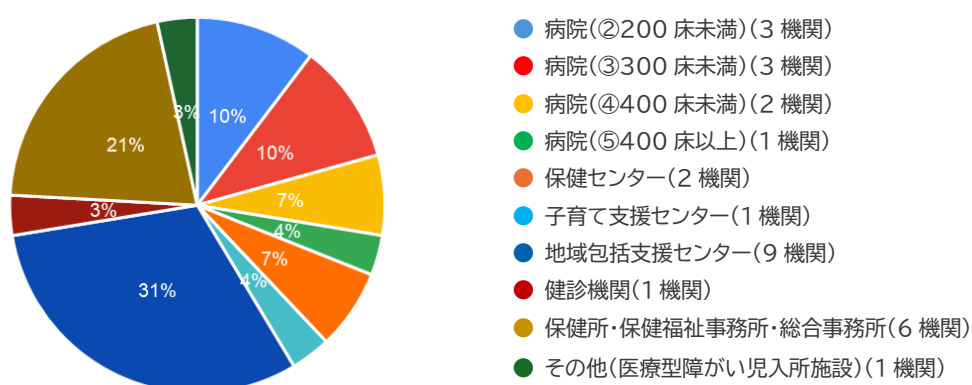
対象者：宮崎県内関連病院 53 機関 回答：30 機関

調査時期：令和8年1月22日（木）～2月3日（火）

※各回答において、未回答項目は集計から除外

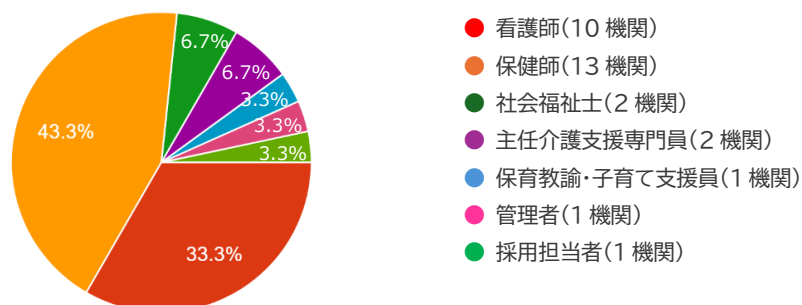
問1. 貴施設は次のどれに該当されますか。お答えください。

29 件の回答



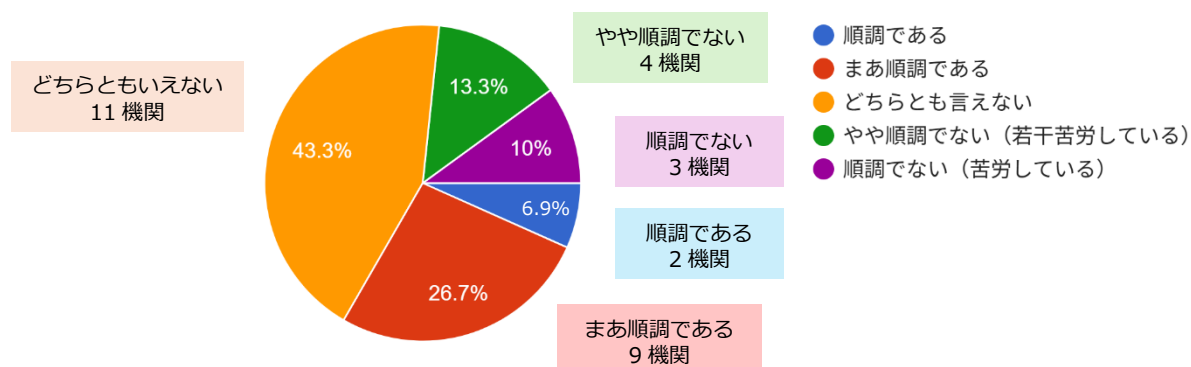
問2. あなたの現在の職についてお答えください。

30 件の回答



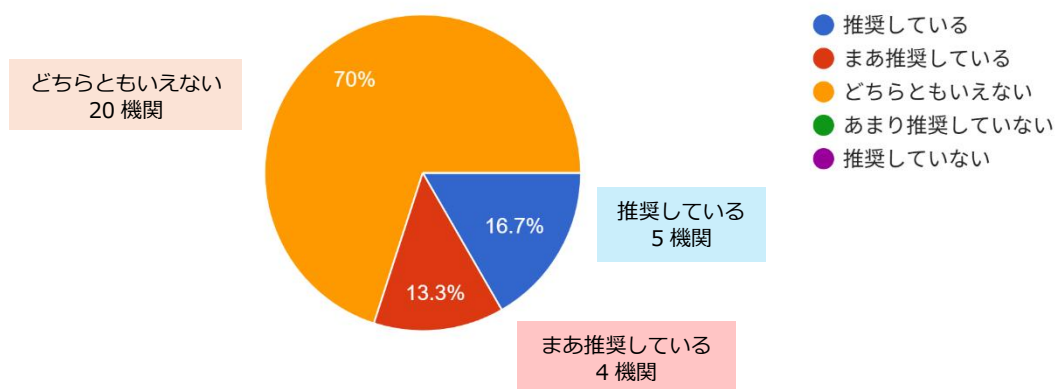
問3. 貴施設では、看護リーダーの養成について順調に進んでいますか。

29 件の回答



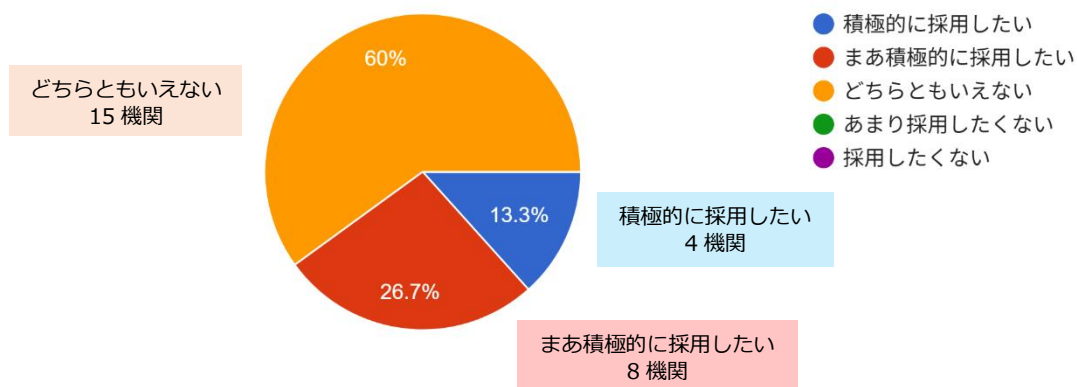
問4．貴施設では、看護等職員の大学院進学についてどのようにお考えですか。

29 件の回答



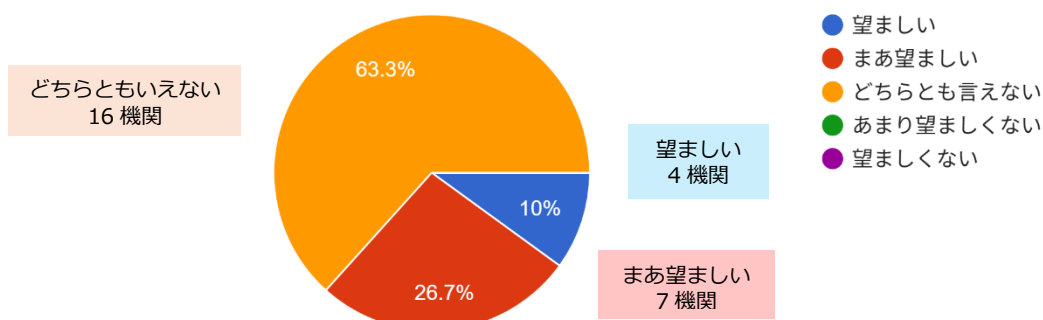
問5．貴施設では、看護等職員の大学院修了者の採用について、どのようにお考えですか。

27 件の回答



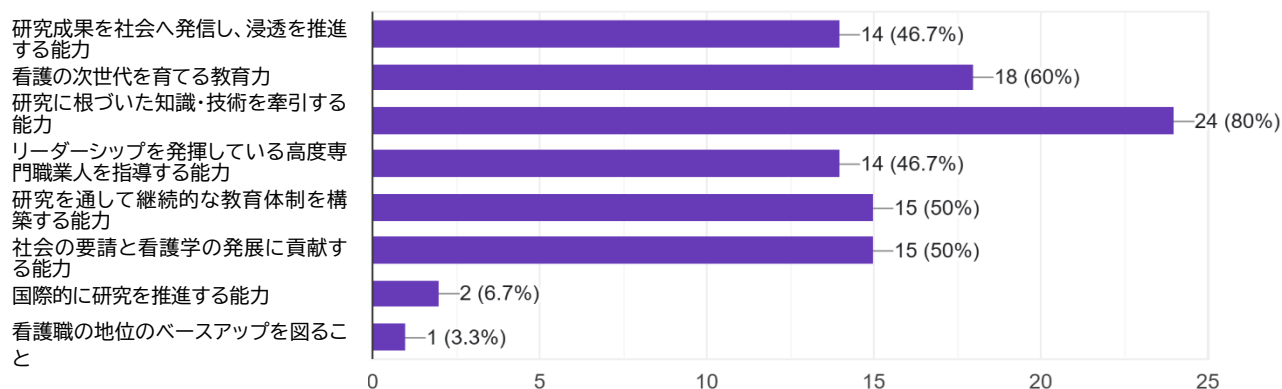
問6．看護管理職（看護部長、施設長等）に昇格する際に、看護学の修士又は博士号を取得していることは望ましいと思いますか。

27 件の回答



問 7. 本学大学院看護学研究科博士課程に、どのような効果を期待されますか。次のなかから当てはまるものをお答えください（複数回答可）。

30 件の回答



問 8. その他、貴施設における看護キャリアアップ等の人材育成面に関し、ご意見等があれば記載ください（自由記述）。

外部機関や県外での研修は予算の制約等もあり、全員が参加することは困難な状況です。
修士課程を目指す職員もいて支援の必要性は承知している。入学にあたっては休職というシステムになっており補充がない状況です。認定看護師教育課程や特定行為の受講も計画しており、人員調整には困難感を覚えます。
今後に期待します
修士課程を卒業した職員へ研究アドができる能力がある管理者がおらず、博士号をもつ管理者の育成を期待したい。
本課程で修得された能力を、地域づくりや行政への提言で生かしていただければと思います。
キャリアアップのための研修等に参加を促すが、現場の意見としては人員不足が慢性的にあり日々の業務にも影響すると消極的な意見が多い。
保健師の多くが子育て世代であることから、キャリアアップのための研修等に参加しにくい状況があります。また、大学卒業者は多いものの、修士課程修了者は少なく、今後は専門性のさらなる向上に向けた支援体制の検討が課題と考えています。
指導側の資質向上を要する状況のほか、人材不足により OJT 等充分に行き届いていない。Off-JT では系統的なカリキュラムにより人材育成が行われている。
地域包括支援センターでは地域と医療・福祉専門職をつなぐ取り組みをしています。大学の実習以外でもボランティアや個人研究など地域支援包括センターに出入りして頂くことで地域の視点で考えることのできる看護職が育成できると思います。19 包括圏域をデータ分析し事業の提案などを頂けるとありがたいです。

資料６－３ 調査結果：地域の病院等に対する調査 一回答機関別 進学・採用に対する考え－

宮崎大学大学院健康科学研究科博士後期課程（看護学専攻）（仮称）設置に係るアンケート調査結果（資料６－２）から、養成する人材像から想定される修了後の進路（施設・機関）ごとに、採用に対する考え方をまとめたもの

※人材像２（自治体等）：

回答施設のうち、保健センター（２機関）、地域包括支援センター（９機関）、保健所・保健福祉事務所・総合事務所（６機関）分を集計（資料６－２ 問１参照）

人材像３（病院等）：

回答施設のうち、病院（②２００床未満）（３機関）、病院（③３００床未満）（３機関）、病院（④４００床未満）（２機関）、病院（⑤４００床以上）（１機関）分を集計（資料６－２ 問１参照）

問４．貴施設では、看護等職員の大学院進学についてどのようにお考えですか。		推奨している	まあ推奨している	どちらともいえない	総計
	人材像２（自治体等）	1	3	12	16
	人材像３（病院等）	2	1	6	9
	その他	2		2	4
	総計	5	4	21	29

問５．貴施設では、看護等職員の大学院修了者の採用について、どのようにお考えですか。		積極的に採用したい	まあ積極的に採用したい	どちらともいえない	総計
	人材像２（自治体等）	2	4	9	15
	人材像３（病院等）	2	3	4	9
	その他		1	2	3
	総計	4	8	15	27

問６．看護等管理職（看護部長、施設長等）に昇格する際に、看護学の修士又は博士号を取得していることは望ましいと思いますか。		望ましい	まあ望ましい	どちらともいえない	総計
	人材像２（自治体等）	2	2	11	15
	人材像３（病院等）	2	3	4	9
	その他		2	1	3
	総計	4	7	19	27